

神奈川県立 港北高等学校

全校的アクティブラーニングへの取組みは、
どのように実現したのか。

本校のALへの歩みと現状

開発広報グループ

総括教諭

若井千明

★アクティブラーニング に対する取組みの核

自学力
の育成

課題を発見し

解決するために必要な

自ら主体的に**学**び続ける**力**

※「自学力」とは本校のオリジナル

元々は本校職員の発案によるものです。その後、様々な使われ方を経て、現在の定義(現校長によるもの)になりました。

★本校とALとの出会い I

H25～H27 「確かな学力向上推進」校（神奈川）

1年目 研究指定の中で、様々な授業の形を模索
コの字型机配置による授業の研修なども

グループ学習の
効果を実感

2年目 港北高校のアクティブラーニング始動
小林昭文先生による物理の模擬授業

溝上慎一先生によるアクティブラーニング講演

理論的な話が
ひとつひとつ
腑に落ちていく
本校ALの原点

3年目 手探りのアクティブラーニング
下町壽男先生によるアクティブラーニング講演

盛岡三高での実践に聞き入る。
未履修問題からのスタート

★本校とALの出会いⅡ

H28～H30 授業力向上推進重点校(神奈川)

1年目 アクティブラーニングの広がりと深化

溝上慎一先生による講演「これからのアクティブラーニング」

(平成28年8月22日)

2年目 全校上げてのアクティブラーニングへ

森朋子先生による講演「理解を深める授業デザインとは」

(平成29年8月22日)

・深い学びにつながる形の模索→全校での実施

3年目 深い学びにつながる形の模索と検証

なぜ、ALなのか、データに基づく納得の講演。

理論に加えて、
外化・内化・外化
個人・グループ・個人
の2:4:4の比率など
具体の話に納得

★現在の取組み状況

授業力向上推進重点校(神奈川H28～H30)

□個別の取組み

H25からの多くの研修によって覚醒したALへの意識の広がりが高まり。ALの視点を取り入れた授業の進化。

□全体の取組み(H29年9月～)

深い学びにつながる形を模索し、全教員で実施する。

- ①授業のはじめに「本時の目標」
- ②授業の展開部で「本時の問い」
- ③授業のおわりに「本時のまとめ」

★授業の紹介 数学(E先生)

講義



問題(個人)



答合せ(4人グループ)



教え合い(4人グループ)



振り返り(教員)

気をつけている点

- 発言の機会を与える
- ランダムに当てる
- 教材選びに《 $+\alpha$ 》の部分

※入試問題を自らたくさん解いて、「深い学び」につながる良問を見つけ出す。

大事にしていること

あっ、わかった
(膝を打つ)

◇演習問題の答案回収後、
いくつかの答案をコピーして配布する

同じクラスの中に、違う解答方法があること、
簡潔で素晴らしい解答があることを知って、皆驚く

授業が終わった後に、数名が集まって
自発的に議論をしている(嬉しい)

★授業の紹介 家庭(K先生)

～生活設計～

調べ学習



まとめ(4人グループ)



発表



講義



話し合い(4人グループ)

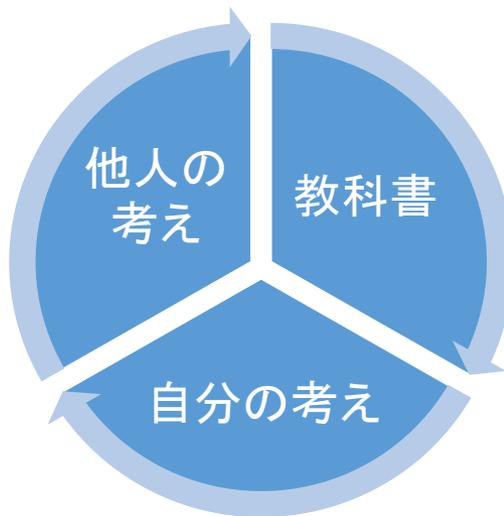


発表

(自分の生活に
置き換える)

個人で考える
他人の意見を聞く

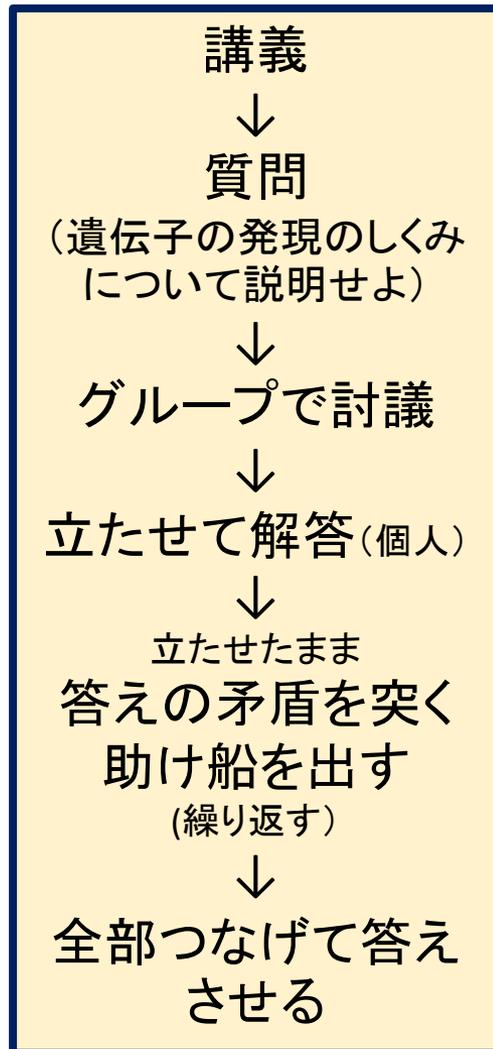
大事に
している点



自分の中に
多様な意見を
取り入れる

困難校で、活発な意見交換に
なることも多い

★授業の紹介 生物基礎



- 答えるときには必ず起立
- 「わかりません」を許さない。
- 答えるまで座れない。
- 短い質問に長い答えの質問
- ぶつ切れの単語による答は、最後にもう一度、文章にして答えさせる。

1年生から意識改革

どんな答えも否定しない。

1人に10～15分かかる。当たっている生徒が何を言うのか皆集中している。

★生徒の感じ方①

◇中学校と比べて

- 中学校の時は、板書が多くて、書きまくっていた。
- 中学校の時は、基本的にほとんどの科目でノート提出があった。提出のためのノートではなく、自分にあったノートがとれるようになって、それが試験になっても生きてくる。

◇グループワークについて

- 4月当初は、授業の中で話すことで打ち解けることができた。
- いろいろな考え方を知ることができる。
- 自分は、授業を聞いていると眠くなるから、自分にとってはよい。

★生徒の感じ方②

◇グループワークについて

- わからないところに気づけるのがグループワークの良いところ。数学とか、自分で行き詰まっているときに、誰かが、こういう考え方があるんじゃないと言うと、どんどん進んでいくときも多い。
- 先生に聞くのは、目立つし、友達に聞けるのは、とても良い。
- 板書ばかりだと、書いたり聞いたりするのが精一杯で、考えるところまでいかない。グループワークで時間をとってくれると、今まで言われたことを考えることができる。板書だと、わからないと気づくのがテスト前になることが多い。グループワークだと、わからないことがそこで気づける。

★生徒の感じ方③

◇ペアワークについて

- 英語で音読をペアワークでやる。一文ずつ。一人でつぶやくより、ちゃんとやろうという意識は強くなる。
- 人がしゃべっている時に、ここ発音違うんじゃない？ ここどういう意味？ 読んでいるからこそ出る質問もある。
- 小テストを交換して採点するので、悪い点を取りたくない。
- できる人とペアになっても、恥ずかしくないように思い、勉強する気が起きる。字もきれいになる。

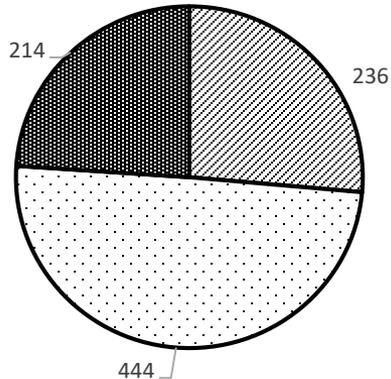
★生徒の感じ方④

◇アクティブラーニングについてどう思う？

- 高校生だから、ALは必要なのかな。就職には必要なのかなという感じで聞いていた。（学校説明会の時）
- 発表が苦手だから、ALで鍛えられるのかなという気持ちもあって、この学校を志望した。
- グループワークは、頭に入ってくる。
- 化学とかは板書が多い、聞こえているけど理解できない感じ。英語とかは、友達と話すときに入ってくる感覚がある。
- テスト前になると、講義できちんとまとめてほしい。グループワークでやったことを、板書でまとめてくれると一番うれしいかな。

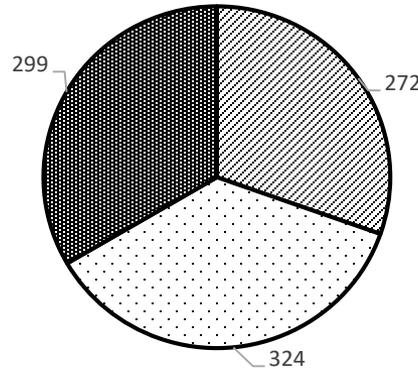
★生徒の意識・行動アンケート

質問1:教科・科目のそれぞれが何を目標としているのか理解している。



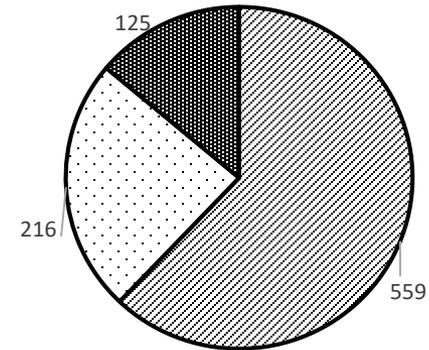
■ 5、4 □ 3 ■ 2、1

質問2:学校の勉強は、社会では役に立たないと考える。



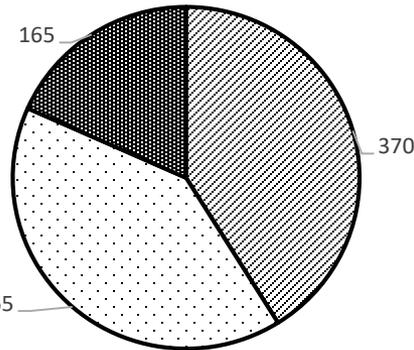
■ 5、4 □ 3 ■ 2、1

質問4:ノートやプリントはきれいな字や図などで美しくまとめたい。



■ 5、4 □ 3 ■ 2、1

質問3:テストの点数を見て、どこが良くどこが悪いのかを考えた工夫したりする。

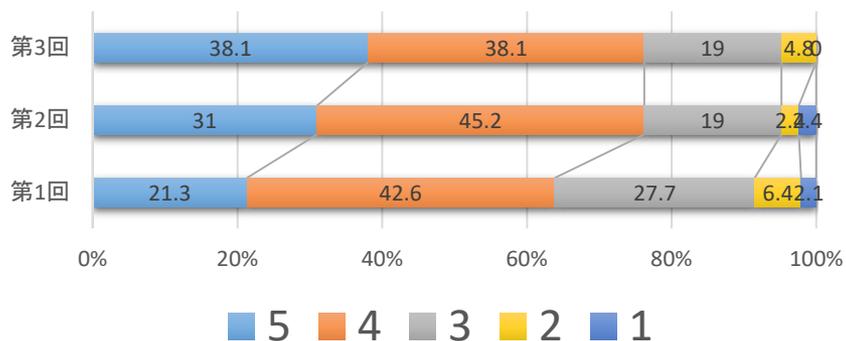


■ 5、4 □ 3 ■ 2、1

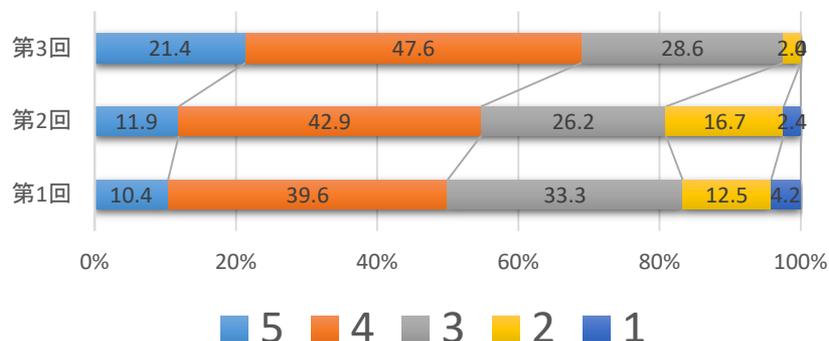
★教員の意識・行動アンケート

第1回H27年5月 第2回H28年3月 第3回H28年5月

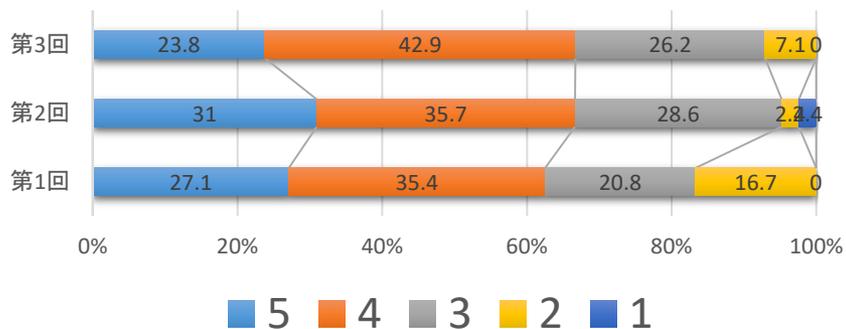
アクティブ・ラーニングの目指すところ
を理解している。



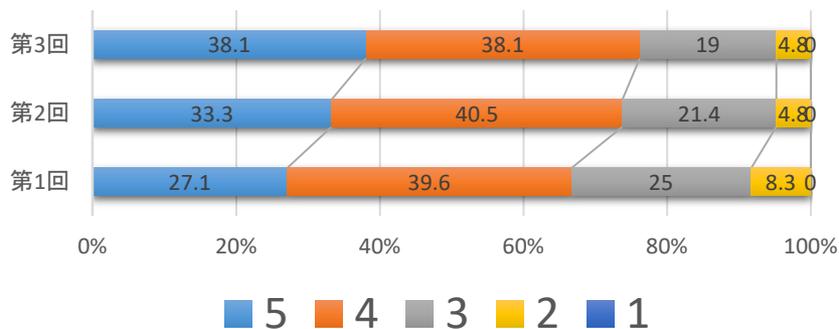
授業の中で、授業について生徒が理
解したことを表現させている。



授業の進度や内容について、同僚と
よく話をする。



授業の中で、生徒が考える時間・場を
確保している。



まとめにかえて今更ですが

「主体的・対話的で深い学び」とは？

「主体的な学び」の重要性

- 「主体的」に生きることの重要性
- 「深い学び」を実現するために求められる「主体」性

「対話的な学び」の重要性

- 社会生活における「対話」の重要性
- 「深い学び」を実現するために求められる「対話」

AL

「深い学び」の重要性

- 知識・技能を使って思考・判断・表現することで、課題を発見し解決する「深い学び」
- よりよく生きるとは？